

首藤傳明先生講義録 4

第 29 回日本伝統鍼灸学会大阪大会・教育講演 平成 13 年 10 月 28 日 大阪森ノ宮学園

(第 94 回弦躋塾)

鍼で心を治せるか～超浅刺の世界

はじめに

おはようございます、首藤傳明です。今日はスライドをパソコンでやろうという——パソコン1年生ですから上手くいくかなというふうに思っておりまして、上手くいかない時は、これはパソコンのせいと。上手くいった時は私のせいと思って下さい（笑）——ということで、「鍼で心を治せるか」ということでお話をさせていただきます。これは第22回ですね、本学会の教育講演で「心の病と気の調整」というテーマでお話をさせていただきましたその続きでございまして、この機会を与えていただきました会頭の安雲先生に厚くお礼を申し上げます。



講演中の首藤先生

小泉純一郎さんが内閣総理大臣になりました。私は純一郎さんに似ているとか患者さんに言われるんですけども、私の頭は天然パーマでして、小泉さんはパーマをかけてるという違いがありますけど。で、構造改革には痛みが伴うと、こう言われます。失業率が5%を超えるとかですね、加えてニューヨークの同時多発テロというのがあります。私もニューヨークのセミナーの時にあそこ行ったことがあるんですよ、世界貿易センターですね。あれがやられたわけで、ちょっとまあ、あの時でなくてよかったなあと思うんですけども。それで世界中が同時に不景気に陥ってしまったと。で、日本もですね、いろんな業界で不景気だということですね。で、当の鍼灸業界も例外ではなかろうと思うんですが、そうす

ると特に開業している日本の鍼灸師は食っていけるのかと、生き残れるかですね。そういう疑問とか質問があるわけですよ。私はまあ、いつも明るいこと言ってますんで明るい結論を出したいんですがね、非常に厳しいですわね。まあ最後にお話をしたいというふうに思っております。

心の病

心の病の中で最近多くなっているのは精神的な疲労です。これは非常に多いと。で、それはまあ、鬱病とかですね、いろんな精神疾患の入口にあたるわけですから、ちょっとこのことを考えてみたいというふうに思うわけです。で、これは去年の2月5日付けの大分の新聞の夕刊ですね、一面トップに出てましてね、「お疲れ日本人、3人に1人が慢性を訴える」で、「生活に支障が17%」ですね。これはですね、厚生労働省が平成10年度から3年がかりで始めた疲労に関する調査の第2報、平成11年度の報告を踏まえての記事なんですが、これを調査されましたのは堺市市民病院の現在は名誉院長をされております木谷照夫先生という方ですね。この人が班長さんです。で、疲労を訴える人のあまりに多いのに驚いていると。で、日本人というのは外国人に比べて特に疲労を訴える人が多いよと言ってるんですけども、私はこれ以上に多いと思いますね。だからまあ、疲労という単純な症状に対してあまり関心が無かったからこういう驚きが出たんだろうというふうに思いますが、これから高齢社会になりますね、それから世界的に疲れというものが広がってくるはずですよ。ところがその、なぜ疲れるのかとかね、精神疲労はどうしてそういうふうになるのかとか、その治療法があるのかという現代医学では無いですよ。ところが東洋医学になりますと御存じのように素問靈枢ではですね、「未病を治す」ということで、ちゃんと疲労に対する疲れの対策が出来ておりますね。で、私は「超浅刺」というのを使いまして、非常に良い効果がありますので後でお話をしたいと思います。

疲労を主訴として鍼灸院に来院した時にですね、こういうそのいろんな疲労を訴える疾患があるわけですから。例えば慢性腎炎とかね、肝炎とか。で、これはやはり注意しないと。病院で何ともありませんという時はいいですよ。ただし鍼灸院に直行という時は、もしおかしいということであればちゃんと鑑別診断をしてもらうということが必要になってまいります。疲労の中で特に最近聞かれるようになりましたのがこの慢性疲労症候群（CFS）ですね。私が10年前にアメリカに行きました時にこういう質問が出ましてですね、これに対する治療法はありますかと。で、私はこの時初めて聞いたんで、さあと言ってたんですけどね。日本でもぼちぼち出て来てますね。主な症状が長期（6ヶ月以上）にわた

り非常に疲れるんですね。もう、だるいだるいで起きられないくらいに疲れるというのが主な症状。他に微熱とかノドが痛いとかですね、それから精神症状としては抑鬱状態ですね。なんとなくおもしろくないという症状があります。原因は不明です。で、多分ウイルスだろうというんですね。ボルナ病ウイルスというね、これが主ではないかと。で、厚生省の先程の調査のですね、第2報でだいぶその方向が出て来ましたですね。第3報が出ればこれは結論が出るだろうと思いますけど、多分ウイルスとそれから免疫異常とかですね、それからストレスとか、そういうものの複合的なものだろうと言われているわけです。で、これちょっと面白いので出してみましたけど、その報告の中に「どういう人がかかりやすいか」と。で、朝食を食べない人。それから牛肉、ほうれん草、トマトなどをよく食べる人がかかりやすいと。もうひとつはですね、かまぼことか山菜とか漬け物を食べる人はかかりにくいと。で、これを考えた時に「伝統的な日本の和食」ですね。これを食べている人はあまりかからないじゃないかと。だからアメリカとかヨーロッパに多いというのはね、こういうのが関係があるかなと、これは私の独断ですけどもね。まあ、伝統というのはいいですね。鍼灸も伝統医学がよろしいということでもあります。

慢性疲労症候群の研究の結果ですね、面白いことに前頭葉のブロードマン9野（情動、意欲、コミュニケーションを司るところ）と、それから24野（自律神経を調節する働きがあるところ）なんですけど、そこでのアセルカルニチンという物質の取込みの低下があると。アセルカルニチンというのは何かといいますと、脳の神経伝達物質ですね。我々おなじみのβエンドルフィンですね。セロトニン、ドーパミンとか、そういう神経と神経を繋ぐ物質です。で、これを作る時にこのアセルカルニチンが使われるわけですから、一言で言うと、いわゆる脳内ホルモンが不足しているということが神経の研究で分かったということですね。で、治療としてはですね、先程申し上げましたように治療法は無いですよ。もう対処療法です、西洋医学的には。で、鍼灸はどうかといいますと、疲労にあたる古典の言葉というのは、いろんな古典の先生方にお聞きしますと「虚勞」とあるというんですね、虚勞。で、虚勞というところを引っぱり出してみますと、病因指南にですね「夫レ勞ハ蔵氣ノ疲労ナリ」と。それから諸病源候論ですと、その脈状は「緩而大者勞也」（緩にして大なる者は勞なり）というふうにあります。ですから五蔵の気が虚してくると疲れが出てくると。で、その時は脈がフワッと浮いてくるということですね。で、その経絡の病証ですが、まあ一言で言えばだるいんですけども、だるいにもいろいろありますからね。微妙に違うんです。違うんですがだるいんです。そういう分かったような分からないようなところがあります。それから鍼灸の治療ですけども、これはまあ後でお話しますが、やっぱり証を決めた方が良く効くということは確かですね。それから手技としては超浅刺を使うと

ということです。

症例

えー、症例です。これはですね、28歳の男性の銀行員ですね。で、お父さんから相談がありまして、「先生、うちの子はね、銀行には行くけど一向にやる気が無いという。なんか良い方法はないですか」と。「いやある、私独自のものがあるから」と言うとなんか飛んで来たですね（笑）。見たらいい体格してるんですよ。で、ともかく悪いのは「やる気が無い」と。脈はですね、沈脈が主ですからこれはもうちょっと疲労を超えていますね。鬱に入りかかっていますね。脈証は脾虚証として治療したんですが、督脈の至陽、靈台、神道と、この辺に圧痛がありましたんで、ここはまあお灸をすえて鍼をして、あとは太白に置鍼をして、あとは超浅刺をやりました。で、1回で治ったんですね。お父さんから（息子）が喜んで電話がありまして「先生、よく効きました」と。で、ちょいちょい（症状が）出て来ますよ。1ヶ月位するとまたやる気が無いとかですね。まあ、こういう人はいっぱいいますね。皆さん方の周りにもいっぱいいますからね。これは、精神的な疲労というものが続きますと鬱になるんですね。抑鬱状態。それから鬱病と診断されるようなものになるんですが。



増加する鬱病

去年の1月29日の朝日新聞の朝刊の1ページにこういう広告が出ていました。製薬会社の、たしかシオノギだったと思いますが、鬱病の新しい薬が出来たと。で、その臨床試験をするのに1000件必要で500件は出来たと。あと500件を一般から募集しようとな。これは私もびっくりしたくらいの広告ですから。初めてらしいですよ、大新聞

が1ページ使うということではですね。で、これ私はとってあったんですが、その後の週刊朝日の記事ですと、500件募集したんですが3週間で5000件殺到したと。で、先週の週間朝日見たら6000件来たというんですね。すぐに締めきったということですが、これでいかに鬱が多いかということが分かるわけですが、その時に「こういう症状のある方はひとつ応募して下さい」というのが6つ出てました。「よく眠れない、食欲が出ない、体がだるい」と、これが非常に特徴的です。北里大学の病院長の先生のお話ですと日本では1割が鬱、または抑鬱状態だと。だから1千万、最近の報告だと1千200万位あるんじゃないかということですが、私はまだあると思うんですね。非常に多いですよ、抑鬱状態とか。で、鬱病の背景ですけれども、生理学的には先ほど申しましたように、セロトニンという物質、神経伝達物質の不足であろうと、こういうんですね。でまあ、教科書からこういうの引っぱり出してみましたけども、どうもその辺が一番のポイントのようです。で、鬱病が非常に多くなった。特に日本で多くなったのはなぜかと、これが一番の問題であって、几帳面とか生真面目とか仕事熱心——私のような性格の人は社会が求めるというんですね。これはやっぱり「これやってくれ」と言われたらサッとやるわけです。あの、めまいの時もちょっと心理的なものを研究したんですけども、めまいを起こす人は「何とか正直」ですよ。一生懸命やるんですね。もう、ぶっ倒れるのを覚悟でやって、安心してぶっ倒れるわけです。どうも鬱病の人もそういう傾向があるんですね、一生懸命やる。ただまあ、少しちゃらんぼらんになるといいんですけどね。それが無い。で、それは鬱病の病前性格という鬱病になりやすい性格を持っている人を日本の社会が求めると。だから要するに社会に原因があるということですが、どうもやっぱりこれはそうでしょうね。で、鬱病の症状は先ほど申しあげましたような、「眠りと食欲とだるい」ということと、それから気分の日内変動といいますけど、朝が悪いと。で、午後良くなるとこういうことですね。それと「面白く無い」と、ひどくなると「もう死にたい」とか言いますね。



心の座は五臓にある

鬱の症状を古典から探ってみます。これは有名な靈枢の——あっちこっちに出ているんですけどね、有名なところでは「靈枢の経脈篇」ですね、第十。足の陽明胃経のところで、是動所生病というところで最後のところですね、「独り戸ヲ閉ジ窓ヲ塞ギテ処ル」と。これはもう鬱そっくりですね。だから2000年前に中国でやっぱ鬱があったと。不思議なことですね。だからいつでもやっぱ鬱というのはありうるというふうに思いますね。腎経もそうです。こういうのが出てまいります。そうしますと、鍼灸の古典では、鬱とか躁鬱とか、心の病というのをどういうふうに見てどういうふうに解釈をつけたのかと。どうもその鍵はですね、この「鍼灸甲乙経」、皇甫謐の編集した古典ですね、この中にあるという感じがします。その第一巻、第一章節に「精神五蔵論」というのがあるんですね。これは良い言葉ですよ。これはまあ皆さんも覚えておいて下さい、精神五蔵論ですね。で、難しいんですよ文章は。何回読んでも分からない、解説を読んでも分かんないんですけども。あの、要するにですね、心の座というのは五蔵にあるというんですね。で、西洋医学で心の座は脳にあるといいますね。いや、違ふと。東洋医学では肝心脾肺腎がその心の座を占めているんだという。で、たとえばですね、上から3つめ「肺臓は魄を蔵し」とね。肺の中には魄という気があって、これが薄くなると心が乱れてくるんですよという考え方ですね。で、心臓は神を蔵してね、肝臓は魂ですよ。脾臓は意と智、腎臓は精と志と。これをどう解釈するかですね。これが非常に難しいといいますかね、いろんな先生方、まあ古典を含めてですね、解説を見ますけども私のような頭の硬い者を納得させるような解釈は無いんです。無いですが私が自分の身体を治療してて、で、患者に治療をしてて自分なりのですね、これは私の思い込みですが、解釈をしたのがこれですね。

神というのは、これはまあ別格ですね。五蔵の中で心臓というのは経絡治療でも別個として扱ってますように、この神というのは考え方、それから行動の全てを支配する。ですから古典の中に「神のある者は栄える、神無き者は滅ぶ」とありますように、パッと見てね「あっ、この人は駄目だ」という人がありますわね。影が薄いかいいますね。確かにあるんですよ、ええ。今日も薄い人が——いませんけども（笑）、そういうのは神が無いんですよ。で、魄というのは何か。これはまあ機会があれば詳しくお話しますが、とにかく私の解釈ではやる気と。で、この魄が無くなると死にますけど、薄くなるとやっぱやる気が無くなっちゃう。さっきの銀行員と同じですよ。肉体は健全けども、どうも迫力が無いというんですかね。まあ一応こういう解説をつけましたけれども、肝臓の魂は決断とかけましたけども要するにひっくるめて「やる気」なんです。微妙に違うんですね。たとえば肝虚証の時の感情と脾虚証、肺虚証の時の心のありかたというのは違うんですよ。

どう違うかと言われたって困るんですが、それはやる気が無いんですよ。ですからこういうふうに解釈しますと非常にわかりやすくなってくるんで、患者さんもですね、「私の病気は何でしょうか。病院に行っても何とも言わんし、どこも悪くないと言われたけど、私はもう本当に悪い」という時に「これは気が抜けてるんですよ」と言って。そうすると「ああ、やっぱり先生、その通りじゃ」と。そういうもんですね。ですからこの解釈というのは、私なりに満足しています。

で、鬱の脈ですけれども、脈法指南ですと「脈多ハ沈伏ス。鬱脈ハ皆沈ヲ本トス。鬱甚ダシキ者ハ伏シテ隠ル」と、沈んでくるんですね。これはどうも臨床からみるとね、鬱病の人は本当に沈んでますわ。だからずーっと浮いて来たとかね、そういう時は好転した証拠です。先程の疲れの患者というのは、もう沈んでいましたから、「あ、もうこれは鬱がかなり入っているな」ということが分かるわけですね。で、やっぱこの沈伏というのは、私は納得出来ますね。脈証としては、肺虚証というのはどうも私は一番のポイントみたいだと感じますね。それから脾虚証というのが多いです。だからその、肝虚証という時はですね、私はあまり心配しないですね。割と早く治るなど。で、肺虚証とか脾虚証というのはね、これはやっぱり3ヶ月かかるなどかね、そういう長期的なものが必要になってくるというふうに思います。

で、鬱の治療。先程の精神疲労の治療でもこれは同じなんですけども、原則として、これは私の場合で言いますと、私がやる深鍼というのは良くない。で超浅刺をやると。非常に浅い鍼です。それからあまり多くツボを使い過ぎないほうが良いと。お灸も使うんですが、失眠穴というのがありますね、踵に。これを必ず、眠りが良くても使います。それからその先程の督脈に反応があれば使います。無ければ使わない。脾経と肺経が重要とね、脾虚証、肺虚証。特に肺虚証ですね。これは肺虚証の場合ですと太淵しか使わないんですが、この前大分の全日本の学会がありまして、私は肺虚の話をしたんですが、佐賀の吉本先生という医者の方が懇親会の時に私のところへ来ましてね、「太淵というのは先生、脈会になっている」とね。八会穴のうちの脈会だと。「しかしこれ、私はホルモン会だと思わうんですね」と。で、私も先程言いましたようにね、「鬱、心の病」というのは脳内ホルモンが不足しているか出過ぎてくるかのどっちかだと。だからこの太淵というので調整するとホルモンが適当に出てくるという私の考え方ですけども、もうぴったりですから同調したんですけどね。それほど太淵というのは良く効くツボです。私はもう、しょっちゅうこうさすっているんですね。こう指でさするとものすごく気持ちがいいんですよ。それで太淵、大陵、神門というのがありまして、こうさすってみるんですよ。で、太淵が一番気持ちが

いいといった時は、それは何かかなり鬱があると（笑）、そんなことはないですけど（笑）。それから治療はですね、これもちょっと要領がありまして。私は何も言わないですね、患者さんには。で、「頑張ってる」とか言うのが良くないと言われますが、本当そうですね。「悪いですか」って言って「悪い」と言ったら「ああそうですか」でいいですね。「まあ、楽にしましょうよ」と。「もう一生懸命やったんやからね。鬱になる人は決まってる、一生懸命やり過ぎてるんですから。もうちょっと、人生長いから、ちょっと休みましょう」と言うのが一番いいですね。それから「観の転換がはかられるか」と書いてありますが、この鬱の患者さんというのは私と一緒に思い込みが激しいですね。で、これしか無いと思うんですよ。だから経絡治療しか無いとかね、他の治療は駄目、俺の治療が一番とか、それは関係ないですけども（笑）、自分のことを思い込むんですね。だから複眼というのは、こっちから見ようとかね、こっちから見てみようという感じが無いんですよ。だからそういう性質の人がなりやすいわけで、学者の中にはですね、怨念があるんじゃないかと。恨みを誰かに持っているんですね。親とか上司とかね。上司はかなり多いですね。それとか、この学会ですと会長だとかね（笑）、そういう恨みを持っていると鬱は治らないよと。学者が言うんですよ、これ中外日報に出てましたが、探したんですけどちょっと見当たりませんもんで。過去3～4年前の話です。これ学者が言ってるんですよ。私もね、その当否を別としてやっぱりその「感謝」をするというね。人に物に事に全てに感謝するという気持ちがあると、鬱というのにはならないと私は思っていますから。で、悪い時にはですね、こんなこと言ったら駄目なんですね。反発買いますし、来なくなりますから。良くなって「先生、俺はどうしましょうか」と言うんですよ。もう他所で治らないなんて言われたって治ったから。で、その時はこの話をする。「もし私にそういう気持ちがあるのならば、いろんな人を助けてあげて下さいよ」と。優しい言葉だけでもいいんですよ。そうすると非常に納得してくれますね。

これは症例2ですが、産後の不眠と。産後に鬱になったんですね。医大病院で診てもらったんですけどね、まあ一見するとわかりますね、鬱病というのは。顔がね、眼がうつろなんですよ。どこを向いてるんだかわかんない、ぼやーっとしてるんですね。で、こっちを向いてる時、治療家を向いてる時はね、キツとなって睨みつけますよ。怖いくらいね。だから顔を見ただけで「これは鬱だな」とわかるわけですが、この人の脈はやっぱり沈脈でね、肺虚証でやりましたね。で、3ヶ月目くらい、23回目ですね、非常に良くなってきまして、顔色が良くなって。最近はですね、まだちょいちょい来てますが、医大の先生がね「わあ、変わったね」とね。その症状が良くなったのにびっくりしてるんですね。もう、抗鬱剤もなんにもいらない、ただ寝る前だけ入眠剤を飲みましょうということですね。

で、挨拶もします、ちゃんとね。それで、看護婦さんですが「職を探します」ということで。まあ、だいたい鬱状態と名が付けば3ヶ月は見ておく必要があるかなと思います。

症例3です。これも非常に面白い症状といいますか、面白いというと患者さんに叱られますけども。12年前から躁鬱状態なんですね。で、薬を飲んでいると。良い時は一生懸命、スーパーマン。自分で言うんですよ。私はスーパーマンじゃないかと。これ女性ですけどね。で、店長さんですわ。スーパーマンみたいに働くけど、悪くなるととたんに落ち込んで、さっきの霊枢じゃないですけど「戸を閉じ、窓を塞ぎて」おるという。もう、電話も出ない。物も言わない。この前もちよっと治療に来ないなと思ったら、1ヶ月鬱だったって言うんですね。で、まあだんだん良くなっているんですよ。良くなっているんですが、面白いことに肺虚証で治療しますとね、必ずいい時は電話がかかってくるんですよ。「先生、おしっこが滝のように出た」とね。「滝のようにバーッと出て、もう2キロ痩せて。で、お通じが先生、4回もあった。今までのお通じはどこ行ってたんでしょうか?」と。「私ゃ知らん」と言いますが（笑）。それは鬱で電話をかけてくるんですね。それで鬱の人の中には「良くない」と言ってかけてくる人もあるんですよ。今、治療に来ている婆ちゃんからは、もう毎日かかるんですよ。うちの母ちゃんが対応していると「あつ、多分あの人じゃろう」ってね。そういうなんか執念深いところがありますからね。で、まあ良かったり悪かったりですけども、だんだん良くなっているんですよ。で、私が今度（学会で）鬱の話をするというと、「先生、そんなら私も大阪まで行ってね、壇上に立って証明しましょうか」とか言うくらいの人なんですよ（笑）。で、特徴的な症状として、後頸部をこう触ったんですけどね、最初は触れない位に首をよけるんですよ。そっと触るだけなんですよ。2回目からはそんなこと無くなりましたが、非常に後頸部が敏感になっていたというのが特徴ですね。

超浅刺

いろいろ、超浅刺が効くということをお話してきましたので、では超浅刺とはどういうものかと。これは私が勝手に名前をつけたわけで、この学会でも、それから鍼灸業界でも認知されたものじゃないんですよ。超浅刺をやりますとですね、こういういろんなところにいいんですが、特に2番目の倦怠感ですね。このだるいを取るというのはこれが一番いいですね。もう、すぐ取れちゃう。体がだるいだるいというのは取れにくいですよ。で、私も肺炎をやったことがあるんです。で、2日仕事休んだんですけども。3日目から始めたんですが、もうだるうてですね、午前中だけ仕事して午後はもうひっくり返って。気持

ち悪いばかりでですね。普通の鍼やるけど上手くない。で、ふと考え出してね、これやったんですよ。昼間やって、その夜からスッと良くなりましてね。だから非常にあの、クルッと変わるんですね。それから4番目ですね、精神神経科への影響と。気分が明るくなりますね。これは大事です。私の患者さんはですね、こういう人がいっぱいなんです。で、まず肉体が良くなる前に心が良くなるんですね。そうしますとね、あまりその、体の症状というのは気にならなくなる。だから仮面鬱病といまして、腰痛で（治療に）来るけども、実は鬱病だったというのがあるでしょう。これはやっぱりね、そういうことの最たるものでね、まず心を治してあげると。そうすると、たとえば腰が痛いというのもですね、「先生、良くなりました」と。あまり良くならなくても「良くなりました」本人は感じるんですよ。そういう非常に特徴的なところがあります。で、じゃあ超浅刺というのはどういうものかといいますと、小野文恵先生の接触鍼というのは鍼尖を皮膚に当ててこう、つくとね、これが接触鍼ですね。で、浅刺というのはだいたいまあ、経絡治療の岡部素道先生がやってましたように、こう弾入しただけで置鍼するとね。ですから1ミリか2ミリ位でしょう。で、その半分位だと。その半分の深さで0,5ミリというふうに規定したんですけど。それからその、今日このあと実技がありますが、超浅刺を私も少しやってみようと思ってるんですけども。鍼柄をですね、人指し指は固定して、親指でこう回旋する。4分の1回旋ですね。で、バーッと出来るだけ速く、1分間に400回位やる。これ数えられないんですよ。カウントが出来ないくらい速い。それでやっていると鍼が重くなってくる、気至るですね。そこで抜鍼するということです。使う鍼は1寸02番、ですから3センチ12号ですね。で、まあ何でもいいんですよ。最初私は01番を使ってましたけど、最近ほとんど02番。使い勝手がいいものであれば、これは2寸でも寸6でもいいということですが。あの、短いと素早く出来ますね。

それからですね、これもひとつの症例ですが。女子高生がお母さんに連れられて治療に来ました。で、黙ってるんですよ。ブスッとして黙ってる。で、お母さんから聞きますと、肩凝りとイライラがあるようだと、こういうことですね。で、治療したわけですよ。そしてですね、お母さんが後でものすごく喜んでね、「先生、この子はとっても素直ないい子になりましたよ」と。で、親孝行するとね。今まで反抗的だったのが、炊事とかいろいろお手伝いをするようになって「本当に先生、性格が変わりました」と。で、もう結婚して今は一児の母ですけども、時々治療に見えます。素直なままですね。これは鍼で性格が変わったのかというと、私はそうではないと。で、人の性は善なんですね。人の性は悪なりとか、性善説、性悪説というのがありますね。五蔵の不調和で、その性善なるものが隠されてたと。だからそれを調和することによってその人の人間の本来の善なる性が出てき

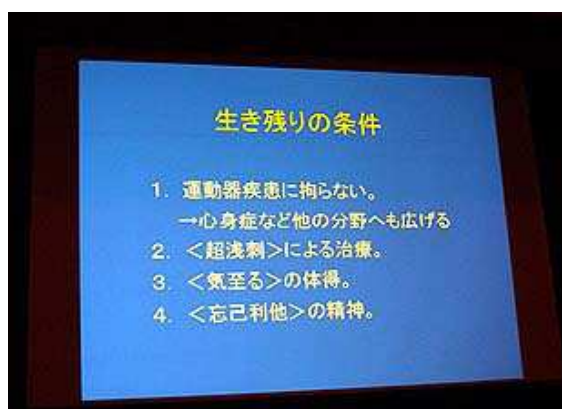
たんだというふうに、まあ解釈をしているわけです。

21世紀は心の時代と言われてますね。先程は鬱、鬱まん延の時代だとも。で、精神病の時代という解釈もあるんですよ。確かに最近の、まあテロでもそうですけども、若者がすぐカッとなってね、キレルと。で、ナイフで刺すとか、人を殺すと。で、赤ちゃんが泣くとパッと2階から投げると。これはちょっとね、私らの常識ではかんがえられないですよ。これは何なのかと。で、これをなんとか鍼で上手く出来ないかというのが、私の非常に雄大な考え方でありまして。まあ、心というのは非常に厄介ですね。宗教家も哲学者も一生懸命これ、悩んでいる。西洋医学では心と体は別々なんですね。2元論というのがある。で、東洋医学は心身一如といいますかね、同じものだと。これどっちが本当かといいますと、やっぱり臨床では同じものですよ。さっき言いましたようにね。で、西洋医学でも最近では精神免疫学とかですね、心療内科とか、だんだんと東洋医学に近づきつつあるんですが、2千年も前にこのことをですね、言った東洋医学。しかもちゃんと処方まで出来ている。それは変えなくて通用すると。これは後何千年経っても通用すると思いますよ。凄いなど。まあ考え方によっては勇ましいというかね。これはしかし、西洋の方から見ると荒唐無稽ですわ。なにを馬鹿など。鍼灸師の先生方でもね、そういう西洋的なものに加担するという人もあるかもしれない。で、心の病の治療というのは、あまりこれまで言われていないですね。全日本の学会誌を見てもあまり無いですよ。それはなぜかと。やはり鍼が深すぎたんじゃないかという気がしますね。そうしますとこの超浅刺というものを使うと、非常に良く治ると。私の体でも、それから患者さんの体でもそのことを認識してこう広く使い、利用するうちに、「鍼というのは人の心を治す」んじゃないかなと。しかし治すんじゃないくて、今まで隠れていた善なる性が出て来るというふうに思うようになったわけですね。で、今の世の中、抑鬱状態の人が非常に多いんですよ。しかし、この超浅刺しますとですね、その抑鬱が取れるばかりじゃなくて、幸せになってくる。じゃあ、幸せとはなにかと。これまた難しいんですよ。私は脳内ホルモンが全開だと。適当なホルモンが適当な量出てる時は幸せと。で、宗教家の悟りの状態もそれだと。これは中外日報で出ていましたけどね、多分そうでしょう。大脳の神経伝達物質と悟りという状態は関係がある。だからその「行」によってそういうものをパッと出させるわけ。で、私は鍼で出させると。そうすると幸せになる。金は無くても幸せ。金があるから幸せじゃないんですよ。金があっても自殺する人は結構多いんですね。だから、私はこういうその、ホルモン全開の状態が幸せだと思うという、私は「幸せを、人に運ぶメッセンジャー」と。患者さんにもずけずけ言うんです、「私は皆さんに幸せを持ってきてますよ」と。「そうでしょうなあ」と同感してくれますけどね。で、このやり方をですね、患者さん方にひとつ利用していただ

き、どれだけ効くかということですね。

鍼灸師が生き残る条件

それからその、最初の疑問ですね。「鍼灸師は生き残れるか」という話ですが、今の日本の鍼灸業界ですと、運動器疾患が一番多いんです、扱う病気としてはね。この表はですね、医道の日本の6月号に載っていた後藤修司先生、これ来年の第30回の記念大会の会頭を担当される先生なんですが、その先生の後藤学園によるサンフランシスコ大学院大学クリニックという鍼灸の病院に来る患者の統計です。で、上のほうからね、不安、ストレス、胃腸、慢性疲労症候群、慢性肝炎と、内臓疾患が上のほうにずっと来てるんです。で、下のほう、8位に運動器疾患があるでしょ。で、これ医道の日本にも何年か前にですね、統計をとったことがあるんですが、小川卓良先生が解説していました。やっぱり一番上は腰痛でしたよ、日本では。その次が肩凝りで、3番目は膝関節痛ですね。内臓疾患というのは少ない。心の病が全然無いはずですね。で、これはどっちがいいのかというと、私はどうもやっぱりアメリカのこういう患者を診るという形のほうが理想的だと思うんですね。で、なぜ差が出るのか。アメリカの患者さんは頭が良くて、日本の患者さんは頭が悪いという推測は困りますけど、固定概念が日本人に行き過ぎているんですね。肩凝り、腰痛は鍼灸院、内臓は病院と決めてしまっているんですよ。で、ある意味では鍼灸師の先生方も悪いんですね、そういうのも効くんだということを来院する患者に吹き込まないとですね、なかなかそういう概念は離れないですから。自信を持って吹き込むんですね。で、偉い首藤先生が言ってるからいいと。それでもいいですよ。で、やってみなさいと。自信が無いならね。「首藤先生が言うたから多分いいじゃろうからやってみましょう」。やると必ずいいと言いますね(笑)。



鍼灸師が生き残る条件とは

そういうことでね、やっぱり運動器疾患に関わらないで、他の分野に手を広げて、その治療成績を上げるという。それからさっきの超浅刺ですね。で、もうひとつ気至ると。これまた分からないと困るんですよ。これ意識が無いから分からないと思うんですね。気至るというのは「あ、来たな」というのをどういうふうに掴むかということを考えながらやるとすぐわかるんですよ。で、これと「忘己利他」というのは、この話はあんまりすると「もう懲りた」と言われるか(笑)。やっぱりボランティアの気持ちですね。先程ちらっと鬱の患者さんに言いましたように「人のために」という、そういった気持ちでやると。この4つの条件なんですね。備われれば必ず生き残りますよ。で、鬱、抑鬱状態の患者さんはいっぱいですからね。だから、これが揃ったら皆さんフウフウいうはずですが、患者さんが多くなって。私は日本の人口の3分の1位は、鍼の適応症だと思ってるんです。皆知らないだけですね。だから、それが分かったらですね、食うものは食いますけども、旅行は一回止めて鍼に行くかというふうになりますよ。私はそういう自信と明るい希望を持っているんです。だから皆さん方もですね、ひとつ腕を磨いて、患者さんからね、「先生でなければ」と言われる位の腕を持つようになってですね。なれるんですよ、私がですね、本当に劣等感の塊でしたからね。頑張ってきたから。何でも頑張れば出来るわけですから、皆さんに出来ないはずがないです。ということで、鍼灸というものには非常に宝の山が入っていると。まあ、いま私がやっているような治療分野だけではなくて、いろんな違うところで応用が効くはずですが。そうしますと鍼灸師でないと駄目と、病院の先生がやっても駄目というのが必ずあるんですよ。まあプロですからね、その辺まで精進していただければ、非常に明るい鍼灸の未来が開けてくるだろうと。これは夢の話じゃないんです。現実には私はそう確信していますので、それを結びとして終わりたいと思います。ありがとうございました。

文責：高嶋正明